

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 第38回 国民体育大会四国ブロック大会	2	派遣期日 平成29年8月19日(土)
3	報告者名 田中 豊弘 (クラブ連)	4	派遣先 徳島市立体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	第38回 国民体育大会四国ブロック大会	大会期間	平成29年8月19日(土)
大会内容	香川、徳島、高知の成年男子、少年男子、少年女子が本国体出場をかけたリーグ戦をおこない、各カテゴリーの優勝チームが愛媛国体の出場権を得る。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月19日	高知一徳島	U1	R白川(香川)U2近井(香川)	ゲーム序盤から愛媛が優位にゲームを進めるが、後半に入り徳島が追い上げたが高知が逃げ切った。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>担当ゲームの主観 ゲーム序盤から高知が主導権を握り、徳島も追い続ける場面もあったが、高知のシュートが効果的に決まり、高知が勝利した。3POのマニュアルをプレゲームで再度クルーで確認をした事もあり、大きなトラブルも無くゲームを終える事ができた。個人的に、セカンダリーの判定で笛を入れるタイミングが悪く、ゲームコントロールを失いかける場面を作り出してしまった。笛を入れるタイミングに工夫をし、プレゼンテーションを意識する事でゲームコントロールを失わないスムーズなゲーム運営をおこなう事ができたのではないかと感じている。ゲームの序盤の判定が終始ゲームを通しての判定に繋がる事を意識して、テンポセッティングすべきプレイを見極める必要性があった。安易に笛を入れる事がゲームを通しての判定を苦しくしてしまう危険性を感じた。今後、ゲーム序盤の判定を大切にしてテンポセッティングをおこなえるようにしたい。</p>	

審判員派遣報告書

1	事業名	平成29年度ミニ国体	2	日程	平成29年8月19日(土)
3	報告者	近井 英俊	4	派遣先	徳島県

5	大会名称・期間 および 内容等				
	大会名称	四国ブロック 国体予選	大会期間	8月19日(土)	
	内容等				
	・実技研修				

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月19日	高知 - 徳島	U2	R:白川一樹 U1:田中豊弘	各県から選抜された力のあるチーム同士の対戦で、緊張感のある中でゲームはスタートする。高知県の速いゲーム運びで終始リードをするゲーム展開となった。
2					
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
	<p>○実技研修会</p> <p>今回は、3POということで、前回の研修で学んだ3POメカニクスにおけるリードの動き、センターの役割を意識して臨んだ。プレゲームカンファレンスでも、スイッチをするタイミングなどを確認してゲームに入ったが、やはりリードで動くタイミングが遅く、動きながらの判定になってしまったり、スイッチしよう動き始めるものの逆に振られたりするケースが多くあった。ゲーム途中、クルーの中でもっと早く動いた方がよいとアドバイスをいただいたが、動くタイミングをつかむことができなかつたと感じている。前回の平氏の講義の中で、オフェンスができるのは24秒間、フロントコートではもっと短い時間しか攻撃をすることはできないことから、早い段階で動いた方がじっくりとオフェンスとディフェンスの関係を見ることができ、正しい判定につながるということであった。このことが今回のゲームでは十分生かすことができなかつたように強く感じている。</p> <p>また、慣れていない3POということで、メカニクスばかりに意識がいき、正確な判定をすることができなかつたことも反省材料である。自分が判定をしなければならない部分が2POよりも狭くなっている分、ボールを中心に見すぎた感じがしている。ゲーム途中、自分の見なければならない範囲を一定の画面の中に入れるような気持ちで見るとよいと助言をいただいた。そうすることによって、オフェンスとディフェンスの関係をつかむことができ、正しい判定につながるということであった。</p> <p>今回の研修では何よりも3POに不慣れなところが顕著に表れたゲームとなってしまったように反省をしている。県内のゲームでは3POをすることはあまり無い。しかし、今後のことを考えると、3POで行うゲーム、研修会の機会をもう少し多く取り入れる必要もあるのではないかと感じている。</p>

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 国民体育大会四国ブロック大会	2	派遣期日 平成29年 8月19日(土)
3	報告者名 三谷 修司	4	派遣先 徳島市立体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	国民体育大会四国ブロック大会	大会期間	平成29年 8月19日
大会内容	少年男子・少年女子・成年男子		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月19日	少年男子 徳島一高 知	R	長谷川(香川)	接戦のゲームとなったが、終始徳島がリードをして主導権の握るゲーム展開となった。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等
<p>○大会への心構え ・国体予選ということで、各県とも本戦出場に向けていろいろと準備をしてきているということを理解し、どの大会でも当たり前のことですが、公平さということを意識しました。</p> <p>○ゲームを通して ・プレゲームカンファレンスで高知の留学生のところを重点的にという話をしたが、実際にはそこが中心にはならなかったのが、修正をする必要があった。そのところが少し遅れたために、ゲームへの対応が遅れてしまった。もっと早くゲームの展開や流れを感じて、ゲームにマッチできるようにしなければならない。 ・自分の課題である手の使い方に関しては、ガイドラインに照らし合わせて、プレイをさせるよりも、ファールとして取り上げた方がよかった場面がいくつかあったので、最初からもっと手に関しては意識を高くもって臨まなければならない。ガイドライン、RSBQの理解を高めて、それに則った判定が正確にできるようにしなければならない。 ・上級として、主審として当たり前のことが当たり前のようにということを改めて考えることができた。</p> <p>○感想 3POのレフリングを見ることもでき、自分にとっては大変勉強になりました。3POにつながる2POの動きということをこれからも意識して取り組んでいきたいです。10月には愛媛国体という大きな大会があり、上級として参加できるいい機会なので、今回の経験を生かしてしっかりと準備をして臨みたいと思います。</p>	

審判員派遣報告書

1	事業名 国民体育大会 第38回四国ブロック大会 バスケットボール競技	2	日程 2017年 8月19日
3	報告者 長谷川 悠貴	4	派遣先 徳島県 徳島市

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	国民体育大会第38回四国ブロック大会バスケットボール競技	大会期間	2017年8月19日
大会内容	国民体育大会の四国ブロック予選。 今年度は、愛媛県開催の為、徳島・高知・香川の3チームでリーグ戦という形となった。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	8月19日	少年男子 徳島 vs 高知	U	三谷 修司さん	序盤から拮抗したゲーム展開となった。ハードなディフェンスからリードを得た徳島県が、ロースコアゲームを制した。
2					
3					
4					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>●ゲームでの反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い手の使い方について 第一ピリオドの基準はよかったが、その流れが持続できなかったと反省をいただいた。また、インサイドのポジション争いや、ディフェンスを遠ざけたいオフェンスの手など、手に関するファウルはディフェンスだけのものではない。簡単にという言葉が適切かどうかは分からないが、見たもの、ファウルであれば素直に笛にしていけることも重要であると感じた。 ・ショットに関して ショットクロック終了間際のショットに対しての明らかなファウルを躊躇して、吹けなかったケースがあった。これもあっさりファウルをコールすべきだった。ショットクロック終了間際で、無理なシュートとみてしまったが、ディフェンスがどうかもよく見て判定をしなくてはならない。 ・トレイルの役割について トランジションの際には、トレイルがしっかりとプレーを追い込んでいかなくてはならない。速攻の場面で走り込んで、判定しなくてはならないケースが多いゲームであったように感じる。2POの場合は特に、トレイルレフリーもしっかりと責任感を持ってプレーとの距離を詰めなくてはならない。また、サイズが大きくなるとショットに関する手の接触はリードからはほとんど確認できない。トレイルレフリーがしっかりとペネトレイトし、良い角度をとることができなければファウルを確認できないということを痛感した。動きを工夫して、トレイルからの判定にもっと責任感を持って取り組みたい。 <p>●ゲームを通して</p> <p>初めてブロック予選を経験させていただいて、大会の独特な雰囲気や緊張感を味わうことができた。ゲームの重要性を感じて自分の判定が慎重になってしまった部分もあったと思う。そうしたゲームの中でも積極的に判定し、ゲームを運営していける力をつけなければならないと強く感じた。</p> <p>●全体を通して</p> <p>今回のブロック予選での経験は、審判や取り組みについて考える機会になりました。1ゲーム1ゲームをしっかりとやりきっていきます。また、多くの人の支えがあり、自分が活動できている事を再確認することができました。自分の責任を考え努力していきます。今回の派遣に際してご尽力いただいた方々、本当にありがとうございました。</p>	

審判員派遣報告書

1	派遣事業名	四国ミニ国体	2	派遣期日	平成29年8月19日(土)
3	報告者名	菅 由佳里 (クラブ連)	4	派遣先	徳島市立体育館
5	大会概要 および 大会結果				
	大会名称	四国ミニ国体	大会期間	2017.08.19	
	大会内容	四国の国体予選である。 愛媛県以外の各県男女チームが集まり、カテゴリー別でトーナメントを行う 少年男子 成年男子は香川県。少年女子は高知県が優勝し愛媛国体に出場する。 運営面においては四国上級審判員やブロック講習生が集まった。 実技を行い、試合を見て勉強しお互いを高めあいよい刺激となった。			
6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月19日 (土)	女子:徳島VS高知	U	小島 慶子(香川)	両チーム選手のサイズも似ていてよく走るチームである。センターが激しくリバウンドに絡みあうし速攻もよく出たゲームだったが終盤に高知がDEFの粘りから確実にシュートを決め勝利をおさめた
7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>< ミーティング内容 ></p> <p>・プレゼンテーションについて</p> <p>走り方一つにしても工夫がある。また肘が曲がっていたり見栄えがしないので 誰かの真似をするなど工夫をしたい。 走るときに足をしっかり挙げてみるとか何か工夫をし修正していきたい。プレゼンテーションをしっかりすることで見栄えも良くなるし今はじめて言われたことではないので日々DVDをみたりして10月までに必ず修正すること。走り方だけではなくディレクション一つにしても肘が曲がっていたりするので日々の練習試合等から意識して取り組んでいこうと思う。判定の正確さ</p> <p>今回は普段以上にトライしたゲームだった。自身の目の前で起こることはしっかり判定しようと思って臨んだ。しかし、コールしたものの中で正確さが欠けているところがあったので、なぜそうなったのか理由を明確にし正確な判定へと繋げていきたい。特にリードの時に中に入りすぎたり、選手に近くなりすぎたときに正確さに欠けることがあるので動き方も意識したい。</p> <p>これからの自分自身の目標も明確になりました。変えなければならぬことは時間もないので日々の意識も大切だと思っています。今回のゲームでは相手レフリーの方に感謝することはいっぱい、もしこのゲーム自分が主審だったらこのように基準を作れたり、ベンチへの対応そして相手レフリーとのコミュニケーションがとれていたのかなと考えさせられるゲームでした。とても勉強になりました。山口県で行われた審判講習会で「どのような試合でも自分が主審の気持ちで」という言葉が心に残っていて今回は特にこの意識を大切にしていこうとコートに立ちましたが足りないところはたくさんあった、まだまだできたことはたくさんあると感じています。なぜそうなったのかということ、良かった時と悪かった時の両方の理由を明確にし、良かったことは継続していけるように悪かったところは意識して直すよう、日々活動していきたいと思えます。私が活動する中で、たくさんの方々に支えられているなど実感しています。いつも時間を割いて指導してくれる方、温かく見守ってくれてる方、そして自分のことのように落ち込んだり喜んでくれる仲間…今回そんな方々のためにも頑張らないといけないという気持ちも再確認できました。この経験を還元できるよう自信と謙虚さと感謝の気持ちをもちこれからも活動していきたいと思えます。また恵まれたことに香川県には指導してくれる方がたくさんいるのでこの環境を当たり前だと思わず日々感謝をして活動していきます。最後になりましたが今回四国ミニ国体に派遣していただき本当にありがとうございました。四国インカレに向け、必ずA級になるようコート内コート外でも努力します。今後ともご指導よろしくお願い致します。</p>					

審判員県外派遣報告書

1	事業名	第38回 国民体育大会 四国ブロック大会	2	日程	平成29年8月19日(日)
3	報告者	小島 慶子 (クラブ連盟)	4	派遣先	徳島市立体育館

5	大会名称・期間 および 内容等				
	大会名称	第38回 国民体育大会 四国ブロック大会	大会期間		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	8月19日	少年女子 徳島 vs 高知	R	菅 由佳里 (香川)	外国人選手のいる高知が前半優位にゲームを進めた。その選手の退場やミスから徳島が猛追を見せるが及ばず。74-76で高知の勝利。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>○テンポセッティング 判定を入れるべき「初めの」イリーガルなプレイを確実にとらえることは、その後のゲーム運営もスムーズにでき、信頼を得ることもできます。「初めの」は、ゲームの一つ目の笛ということではなく、ヴァイオリション(トラベリング)や、ファウル(オフェンス・ディフェンス)など、そのゲームで初めて起こる様々なプレイや状況を把握し、その一つ一つの的確な判定(吹くか、吹かないかで基準を設定)を入れておくことだと思います。これは、クルーの誰の前で起こるか、いつ起こるか分からないので一人ではできないことです。そして、ゲームを通して、クルーとして、一貫性がなければなりません。</p> <p>初めに判定を入れることは、とても勇気のいることかもしれないです。だからこそ、日頃のゲームから意識して、甘えず自分のエリアに責任を持って判定していくべきだと思います。また、初めの良い判定が、その後続かなくなってしまうことがあります。ゲーム中に、ミスをしてしまったり、クレームが出た時、その後の修正ができず最後までズルズルといってしまうのは、判定力の無さやメカニクスの理解不足からきているのだと思います。メンタル面についても、自己分析し、どこに強く弱いのか、それに対して何ができるのか、具体的な解決方法を見つける努力が必要だと思います。40分間、どんなことがあっても判定し続ける強さとその根拠となる取り組み。ブロック講習生が上級になりたいと思う中で、不足している力のように感じました。</p> <p>○FOM、RSBQ これまで、「チープなファウル」という表現がよくされていましたが、何ををもって「チープ」というのか。また、「影響」という言葉も、人によって考え方に差が生じるのではないかと、常々思っていました。しかし、JBAからは、はっきりとしたガイドラインが出され、考えやすくなったと感じています。ガイドラインを理解し、判定に生かしていきたいです。何度も読み返し、コートで意識できる時間を増やします。これは、確かなテンポセットにもつながり、私の課題の一つであると思っています。TLGでは、チームにもガイドラインについての説明がありました。どれだけの時間や労力が遣われ、このガイドラインを示して下さったかを考えると、それを正しく理解し、またコートで実行できることで、応えなければならないと、自身の立場を今まで以上に自覚する必要があると思っています。</p> <p>四国大会という場所で、上級審判員の役割とは何かを考える機会となりました。国体予選でもある今回は、少年も成年もとカテゴリーが様々な大会でした。正しいプレイとイリーガルなプレイを判定を通して、全県に統一されたメッセージを送らなければならないのではないかと感じました。一人一人の審判員がどうだったかではなくて、大会全体としてそれを伝えられなければいけない責任が上級審判員にはあると思います。</p> <p>徳島県知事がいらっしやっていたこともあり、本大会の重さに改めて気づきました。四国ブロックの一員として、自分にできることをしっかり取り組んでいきます。今後とも、よろしくお願い致します。ありがとうございました。</p>					